

# 哲学講座

## コロナ禍の経験から ヘーゲルに入門する

ヘーゲルは19世紀に活躍したドイツの哲学者ですが、「弁証法」や「止揚」という言葉とともに何やら難しいことを言っている哲学者として知られているかと思います。この講座ではそのヘーゲルの著した著作の一つ『法の哲学』のエッセンスを、私達がつい数年前に経験した「コロナ禍」から解きほぐしてみたいと思います。ヘーゲルの時代にもコロナならぬコレラのパンデミックが起こり、ヘーゲルはその犠牲者だったとみられています。そうした時代背景を踏まえながら、ヘーゲルが国家権力の課題をどのような点に見出したのか？そして、そうした国家権力のあり方が、私達が「コロナ禍」で経験した国家のあり方といかにつながるものであるのか？をご紹介しますと思います。

講師

大河内 泰樹 氏

京都大学大学院 文学研究科 教授

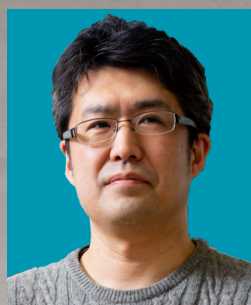
2007年 哲学博士（ドイツ・ルール大学）

2008年～ 京都産業大学文化学部・助教

2010年～ 一橋大学大学院社会学研究科・准教授

2015年～ 一橋大学大学院社会学研究科・教授

2019年～ 現職



日時 2026年 2月16日(月)  
13:30～15:00

会場 集会室 定員 40名

受講料 2,000円

お申込み・お問い合わせはこちら

奈良ニッセイエデンの園 高齢者総合福祉センター ふれあいプラザ

〒636-0071 奈良県北葛城郡河合町高塚台1-8-1

TEL 0745 (33) 2123 【内線9139】 受付時間：10:00～17:00（土・日・祝祭日及び年末年始を除く）